

中学校地理的分野「地域の規模に応じた調査」単元の教科書分析

－ 調査方法と調査資料を視点として －

An Analysis of “Investigation According to Scale of Area” Unit in Junior High School Geography Textbooks: Focusing on Its Methods and Materials

木村公則
(大津市立皇子山中学校)

I. はじめに－問題の所在－

小中学校の教育現場では昨年度から新学習指導要領が本格的に実施されている。中学校社会科地理的分野では、今回の学習指導要領改訂で「地域の規模に応じた調査」単元を改訂の大きな柱の一つとして設定している。この単元では、学び方や調べ方にかかわる知識を生徒たちに身に付けさせる大切な知識として明確に位置付けている。

各教科書会社においては、新学習指導要領のこのような趣旨をふまえた教科書を作成し、「地域の規模に応じた調査」単元では、各社共に「学び方を学ぶ」学習の方法を取り入れた単元構成となっている。

だが、幾社かの新教科書を詳細に検討するなかで、三つの異なる地域規模を教科書の事例を通じ、教科書の示す調査の方法や資料を活用して学習すれば、生徒たちが地域調査の方法を系統的に習得できる構成と成りえているのだろうかという点に問題意識を抱いた。

そこで、本論文では上記の問題を検証するため、教科書構成の課題を指摘し、調査方法ならびに調査資料の二つの視点から教科書分析をおこなう。そして、これらの分析から、「地域の規模に応じた調査」単元での教科書の課題を指摘する。

今回、分析の対象とした教科書は、平成14年度版中学校社会科地理的分野用文部科学省検定済教科書のうち、帝国書院¹⁾・大阪書籍の2社であるが、本論文では主に帝国書院を事例として取り扱う。

II. 「地域の規模に応じた調査」単元の教科書構成

「地域の規模に応じた調査」単元の教科書がどのような構成となっているのかを明らかにし、課題を指摘する。

1. 「さまざまな地域の調査」単元の構成

帝国書院中学校地理の教科書構成²⁾について述べる。本教科書においては、「さまざまな地域の調査」という題目の大単元が設定されており、第1章「身近な地域を調べよう」、第2章「都道府県を調べよう」、第3章「世界の国々を調べよう」という三つの中単元が設定されている。

第1章「身近な地域」では、事例として東京都八王子市を設定している。この中単元の構成は、①空から身近な地域をながめてみよう。②野外にでかけて身近な地域を調べよう。③見つけた課題をもっとくわしく調べよう。④調査の結果をまとめて発表しよう。という四つの小単元から構成されている。①では、学校の屋上からの写真、空中写真ならびに地形図を用いて高いところからの観察を促している。②では、野外観察の準備と方法を説明する記述があり、聞き取り調査の方法についても述べられている。③では、新旧の地形図の比較と統計・文献資料の利用法を示している。また、統計資料からグラフや図をつくる方法ならびにインターネットでの検索方法が示されており、これら2つは調査方法の基礎的スキルの習得といえる。④では、調査結果のまとめ方をフィールドノートにまとめる方法で例示している。

このように、第1章「身近な地域」は、四つの小単元から構成されており、ア、課題の提示

イ、課題解決の方法 ウ、課題の深化 エ、課題のまとめの順で学習を進めている。

第2章は①いろいろな地域にわけて県をしらべよう～地図帳の土地利用図をてがかりにした東京都の例～。②特色となるものを見つけて県を調べよう～統計資料を手がかりにした山形県の例～。③さまざまな視点で県を調べよう～自由な資料集めを手がかりにした福岡県の例～。という三つの小単元から構成されている。三つの県それぞれが違う方法で調べ方をすすめるように設定されている。

第2章の教科書構成はア、課題の提示 イ、調べ方の提示 ウ、調べ先の提示 エ、調べて分かったことの提示 オ、まとめ という配列が三都県いずれの学習でも共通に見出すことができる。

東京都を事例にその配列を具体的に述べる。教科書には6つの課題が事例として掲載されており、そのうちの一つ、東京都の農業を取り上げてみる。見開き2ページの設定である。

ア、課題の提示は、ページの表題として「農業のさかんな地域を調べよう」との記述がみられる。

イ、調べ方の提示としては、小見出しとして「耕地の分布に注目しよう」「統計資料を使って調べてみよう」という二つ記述が見られる。また、欄外の「調べ方」欄に「さやかさんは農業の分布や変化に注目して、おもに聞き取りや地図帳で調べました」と記述されている。

ウ、調べ先の提示は、欄外に「田や畑の分布を知るために、地勢図(20万分の1)を図書館で調べました」「農業の特色や工夫を知るために、農業協同組合や農家の人に、電話やメールで聞き取りをしました」との記載がある。

エ、調べてわかったことの提示は、教科書本文中に「地図帳を見ると、田や畑、果樹園といった、耕地が見つかるでしょう。また、野菜などの記号をさがしてみると、そこでつくられる主な農作物もわかります」などの記述が4項目見出される。

オ、まとめとしては、6つの課題それぞれを総合して見開き2ページを活用してポスター作

りという形式で記載している。

ア～エまでは各都県の課題ごとにそれぞれ6課題程度が配列されている。オは課題のまとめとして、都県ごとに1つ設定されている。ア～ウは教科書本文ではなくアは表題、イとウは欄外におかれている。エは説明的な記述が大半である。

第2章で教科書が提示している「都道府県学習の視点」を見ると、項目としては自然環境、人口、産業、地域間の結びつき、生活・文化が設定されている。そして、学習視点としては、「自然環境」では、位置、地形、気候。「人口」では分布と構成。「産業」では農業と工業。「地域間の結びつき」では、交通網と国際化。「生活・文化」では、生活・文化と歴史がそれぞれ設定されている。項目が5、視点が11設定されており、3都県それぞれ中心的な視点が3または4設定されている。

第3章「世界の国々」では、中国、アメリカ合衆国、ドイツを事例として取り上げている。①国内の地域のちがいに注目して国を調べよう～統計資料を手がかりにした中国の例～。②他の国との結びつきに注目して国を調べよう～自由な資料集めを手がかりにしたアメリカ合衆国の例～。③まわりの国との協力関係に注目して国を調べよう～地図帳をてがかりにしたドイツの例～。の3小単元から構成されており、3つの国をそれぞれ違う調べ方や視点をもとに追究している。

教科書の構成は、ア、課題の提示 イ、調べ方 ウ、調べ先 エ、調べて分かったことの提示 オ、まとめ という配列は第2章「都道府県を調べよう」の学習と同じであり、国や課題が違っても、その構成に変化は見られない。

教科書に設定されている「世界の国々学習の視点」を見ると、5項目11視点が設定されている。項目としては、自然環境、人口、産業、地域間の結びつき、生活・文化であり、第2章「都道府県を調べよう」と同じ項目である。視点は、「自然環境」では、位置、地形、気候。「人口」では、分布と構成。「産業」では、農業、鉱工業、貿易。「地域間の結びつき」では、国の結びつきと人の結びつき。「生活・文化」で

は、生活・文化と民族である。産業、地域間の結びつき、生活・文化の3項目で5つの視点において第2章の視点と異なっている。中心課題は国ごとに4もしくは5つも設定されている。

2. 教科書構成の課題

教科書構成の課題を述べる。帝国書院の教科書では7つの市、県、国がそれぞれ別の調べ方で追究されており、調べ方、調べる視点はそれぞれに設定されている。では、この7つの調べ方に調べる順序の必然性が存在しているのかという点と必ずしも順序の必然性は存在していないと考えられる。

身近な地域で学習した調査方法のうち、「地形図を読み取る」「景観写真をみる」「統計資料からグラフや図をつくる」といったスキルが都道府県、国々でも共通のスキルとして転移している。

「都道府県」「世界の国々」では方法を最初に挙げて調べ学習を行っている。追究していく項目は都道府県・世界の国々共に5つであり、視点は都道府県で11、世界の国々で12あるが、都道府県と国々の視点は全て同じではない。

都道府県、世界の国々いずれのテーマにも配列には規則性は見られない。例えばアメリカ合衆国における配列では「民族・生活」⇒「農業」⇒「工業」という3つのテーマ配列がみられるが、これらがなぜその順序に配列されなければならないのかについては特に必然性は読み取れない。中国では「人口」⇒「農業」⇒「工業」という配列である。これらの配列の根拠をあえていえば旧指導要領での網羅的学習で用いられていた配列に近いということである。

追究する地域事例の配列、学習テーマの配列において系統性が見られないということが、課題である。

Ⅲ. 「地域の規模に応じた調査」単元の調査方法分析

教科書に掲載されているさまざまな調査の方法は系統的に配列され、見方・学び方が系統的に身につく構造となっているのかを分析する。

「地域の規模に応じた調査」単元では、「身

近な地域」⇒「都道府県」⇒「世界の国々」の順序で学習は進められていくのが指導要領の配列である。したがって系統性のある教科書配列であるならば、「身近な地域」で学んだ調査方法は「都道府県」で活用され、さらに「世界の国々」の学習では「身近な地域」「都道府県」で学んだ調査方法が活かされるようになっているはずであるという仮説を立て、分析をおこなう。

分析の方法としては、「地域の規模に応じた調査」単元において教科書が掲載している調査の方法に関する「問い」と「方法」の事例を全て抽出し、分析をおこなう。抽出した地域調査に関する調査方法が一地域規模のみで他の地域規模には転移や活用不可能な調査方法であるのか、それとも複数の地域規模でも活用できる転移が可能な調査方法であるのかを分析する。

分類は表1に示すとおり三つの地域規模それぞれ独自の事例ならびに二地域規模もしくは三地域規模での活用が可能な事例であり、7項目に分類する。

表1 教科書の調査方法構造分類

A 身近な地域	B 都道府県	C 世界の国々
① A 独自	② B 独自	③ C 独自
④ A,B 共通		
	⑤ B,C 共通	
⑥ A,C 共通		⑥ A,C 共通
⑦ A,B,C 共通		

1. 「さまざまな地域の調査」単元（帝国書院）の調査方法分析

表1に示した7項目の分類により、帝国書院の教科書「さまざまな地域の調査」単元の調査方法を分析する。表2～9はいずれも左列から資料番号³⁾、地域名、項目、問い、方法の順で配列している。

(1) 地域独自の調査方法

三地域の各地域規模だけでのみ、活用可能な事例を検討する。表2は、身近な地域のみで活用可能な問いと方法の事例の抜粋である。全事例は5事例ある。身近な地域独自の方法としては野外観察がある。この5事例のうち4事例は

野外観察についての調べ方である。野外観察の準備が2事例、観察後地域の特色を見出すものが1事例、観察後の聞き取り調査が1事例である。

表2 身近な地域独自の調査方法《抜粋》

資料番号	地域名	項目	問い	方法
1101	八王子市	空から身近な地域をながめてみよう	自分の住んでいる地域を知りたい	学校の屋上などの高いところへ上がって、地域を眺めてみる
1106	八王子市	野外観察に出かけて身近な地域を調べよう	観察から地域の特色を見つけるには？	注意深く観察することで新たな発見や疑問が生まれてくる

表3は都道府県の事例として扱われている東京都・山形県・福岡県における都道府県規模でのみ、活用が可能な問いと方法の事例の抜粋である。

全事例は24事例である。農業に関する事例が10事例、工業に関する事例が7事例あり、両事例あわせると17事例にのぼり、産業に関する事例が24事例の大半にのぼる。他の事例としては、人口の分布が2事例、地域間の結びつきに関する事例が2事例、また都道府県の特色を見出す事例が2事例である。各事例とも都道府県独自の調査方法の内容であり、身近な地域では見出せない内容を含んでいること、国どうしの比較や国レベルでの統計では見いだせないような内容の調査方法である。このことから、これらの学習は規模を身近な地域や国々に変えてしまうと応用は利かなくなる内容である。また、「電話をして問い合わせる」とか、「〇〇に依頼する」など調べたい事象や相手との距離がある程度あいていることから取られる方法も都道府県規模独自の調査方法といえる。

表4は、世界の国々独自の調査方法の事例の一部を示す。全事例は22事例である。内容的には多岐にわたるが、「身近な地域」とか「都道府県」ではみられなかった視点や問いが見られる。例えば「国境」という概念は当然「身近な地域」や「都道府県」ではみられない視点であり、

表3 都道府県独自の調査方法《抜粋》

資料番号	地域名	項目	問い	方法
1215	東京	工業のさかんな地域を調べよう	工場の分布が偏るのはなぜなのか 出版・印刷工業がなぜ中心部に集まるのか	図「工業のさまざまな特色」をみて答える
1234	福岡	位置に注目して地域の結びつきを調べよう	県と外国との関わりや県の歴史・史跡が知りたい	観光ガイド・地図帳・県庁の国際交流担当者に手紙で質問する

号1328などはこれにあてはまる。他にも民族・宗教・貿易といった視点は「世界の国々」の視点である。

表4 世界の国々独自の調査方法《抜粋》

資料番号	地域名	項目	問い	方法
1312	中国	農業の地域によるちがいを調べよう	食生活と宗教の関わりを知りたい	世界の生活・文化の本を図書館で調べる
1321	アメリカ	世界に影響力をもつ農業を調べよう	図をみてアメリカ合衆国と日本の農業を比べると、どのような特色があるのか	図「アメリカ合衆国と日本の農家の比較」(1997,1998FAO生産統計年鑑)をみて考える
1328	ドイツ	人やものの動きについて調べよう	国境をこえる人の移動を知りたい	図書館で紀行文などを調べる

(2) 複数地域で共通する調査方法

2つの地域規模、または全ての地域規模で活用できる調査方法の事例を検討する。身近な地域と都道府県の両地域規模で活用できる調査方法は4事例である。

都道府県規模と世界の国々共通の調査方法は35事例である。最も事例数が多いのがこの都道府県と世界の国々との共通する調査方法である。都道府県は身近な地域と比較して大きな広がりを持ち、世界の国々とも違った都道府県のスケールに見合った調べ方が存在する。当然、地域調査でおこなう「歩く」などの手法もとれず、統計資料などが中心となってくることから、共通した調査方法が多く存在するものと考えられる。この35事例をみると、写真をみて考える事例が6事例で最多である。続いて統計資料の

活用が5事例、地図活用、インターネット活用がともに4事例と続く。これらの事例を分析していくと間接資料ばかりである。間接資料を活用する地域である都道府県と世界の国々には共通する調べ方が多く存在する。表5にはそのうちの2事例を示す。

表5 都道府県と世界の国々共通の調査方法《抜粋》

資料番号	地域名	項目	問い	方法
1238	福岡	農業の特色と変化を調べよう	大きな川や平野の位置、干潟について知りたい	地図帳や百科事典、インターネットで調べる
1306	中国	人口の地域によるちがいを調べよう	人口のようすを知りたい	教科書 p.99「ジンジンさんとフェイさんの家族」という写真資料で調べる

身近な地域と世界の国々に共通する調査方法に該当する事例は存在しない。最も地域の規模が異なることから事例の掲載がむずかしいのではと考える。

次に、表6は三つの地域規模すべてで活用が可能な調査方法の抜粋である。該当するものは6事例が挙げられる。どれも資料の扱い方、調べ方に関する問いであり、学習内容としての問いでは無いが、三地域規模のいずれにおいても活用が可能な調査方法といえる。

表6 身近な地域・都道府県・世界の国々に共通する調査方法《抜粋》

資料番号	地域名	項目	問い	方法
1112	八王子市	見つけた課題をもっとくわしく調べよう	統計資料を使ってグラフや統計地図をつくりたい	グラフや統計地図の作り方4つの事例で例示

表7に示すとおり、都道府県と世界の国々共通の調査方法が35事例(37%)⁴⁾と最も多く、次いで都道府県独自の事例が24事例(25%)、世界の国々独自の事例が22事例(23%)である。この3事例をあわせると合計で81事例(75%)にのぼる。一方、身近な地域と世界の国々共通の調査方法は事例が全く無い。

表7 帝国書院の調査方法分類結果

A 身近な地域	B 都道府県	C 世界の国々
①A 独自=5	②B 独自=24	③C 独自=22
④A,B 共通=4		
	⑤B,C 共通=35	
⑥A,C 共通=0		⑥A,C 共通
⑦A,B,C 共通=6		

3. 調査方法分析の考察と課題

教科書に掲載されている事例は全部で96あり、そのうち、地域独自の調査方法が51事例(53%)、二地域もしくは三地域共通の調査方法が45事例(47%)であった。また、共通している事例のうち35事例(36%)が「都道府県」と「世界の国々」共通の調査方法である。「身近な地域」と「都道府県」共通の調査方法が4事例(2%)、「身近な地域」と「世界の国々」共通の調査方法は、「事例なし」であった。このことから、旧学習指導要領から最も内容面での変化が少なかった「身近な地域」学習と他の地域学習との間には調査方法の断絶がみられ、教科書は「身近な地域規模」⇒「都道府県規模」⇒「世界の国々の規模」と三地域を系統的にスパイラルに学習していく構造とはなりえていないことが明らかとなった。

一方、新学習指導要領で新たな展開となった「都道府県」および「世界の国々」の学習は共通する調査方法が多く見られる。このことは、学習の転移性という側面から考えた場合、「都道府県」での学習の成果が容易に世界の国々での学習に結びつきやすく、学習者にとっては理解しやすいといえる。しかし、反面では「都道府県」と「世界の国々」の学習が、教科書において過度に共通化される危険性も指摘できる。異なる地域規模において異なる学習方法を用いて地域の特質を明らかにすべきなのに、地域規模の特質が歴然とは現れないという問題性も指摘できる。転移性という観点から考えてみれば、3つの規模の地域学習で多くの共通する調査方法が多様に存在してもよいと考える。

学習指導要領解説では調査の一般的段階を、「①資料の収集、整理（各種資料の収集、観察、

聞き取りによる情報の収集、資料の選択、比較・分類、そして課題の発見など)、②課題の設定と考察(予想・仮説、分析、総合など)、③調べた結果の整理・伝達(記述・説明、図化、報告・発表など)⁵⁾の3段階として説明している。しかし、両教科書共に①⇒②⇒③の段階を踏まえているような教科書配列の規則性が十分とはいえない。

次に、教科書の事例から自らの課題を設定するような配置とはなっていない点について述べる。本論文では、現行教科書の分析方法として調査の「問い」をどのように設定しているかに視点をあてた。片上氏は社会科で身に付けさせたい学び方に関する記述のなかで「二十世紀は、解決重視型の学び方が主流であった。そのような学び方が、求められてもいた。しかし、二十一世紀は、解決のかなりの部分をコンピュータ等にゆだねられる時代となろう。かわりに、問題の本質がますます見えにくくなり、何が問題か、何を問題として取り上げ追求すればよいか、ますますわかりにくくなる時代となろう。だから、二十一世紀を生きる子どもたちには、技術としての学び方はもちろんであるが、方法(論)としての学び方を、それも『問い方としての学び方をしっかりと身につけてやる』必要がある、と思うのである。」⁶⁾と述べ、問う行為こそが学び方の中核であると論じている。しかし、教科書は問いの事例提示に終始し、学習者に問いを喚起させる構造とはなりえていない。このことは、「分析の結果」に示した表の「問い」と「方法」の全事例をみると明らかである。「社会科の教科書は、(数学科でいえば)例題や練習・応用問題といった問いの記述がほとんどなく、答えに当たるもののオンパレードである。」⁷⁾(カッコ内筆者加筆)と澁澤氏が述べているように、例題としての問いと方法に終始しており、その先の問いを発するまでには教科書が至っていない。

IV. 「地域の規模に応じた調査」単元の調査資料分析

教科書は、さまざまな種類の資料を媒介とし

て調査活動事例を生徒に示している。実際に教科書が用いている資料を分析することにより、資料の傾向を調べ、活用している資料が地域調査をしていく上で適切なのかを考察し、課題を明らかにする。

1. 「さまざまな地域の調査」単元の調査資料分析

帝国書院「さまざまな地域の調査」単元においてどのような資料を活用して調査をする設定なのかを分析する。具体的な調査資料は表9に一部を抜粋して示している。

表9 調査資料一覧 《一部抜粋》

資料番号	地域名	項目	資料	資料の詳細
1202	東京	市街地の中心部を調べよう	地図	主題図
1102	八王子市	空から身近な地域をながめてみよう	写真	航空写真
1236	福岡	位置に注目して地域の結びつきを調べよう	文献	時刻表
1238	福岡	農業の特色と変化を調べよう	インターネット	インターネット検索
1222	山形	自然と農業のかかわりについて調べたい	その他	手紙

表9に一部示した資料を分析すると、図1ならびに表10に示すように帝国書院が調査に用いている資料としては、合計116項目挙げられる。文献資料が34件と最多であり、以下地図資料(27件)、インターネット活用(14件)、統計資料(13件)となっている。

地図資料では主題図が多く、一般図が少ない。地形図を活用する事例よりも、教科書会社が独自に作成したり、他の統計書などから転載した主題図の事例が多い。統計資料では、「FAO生産統計年鑑」などが活用されているが、資料名が不明のものが7件みられた。文献資料では、ガイドブック7件、各種資料集・パンフレット・百科事典各4件などである。その他の資料としては電話・聞きとり・FAX・手紙の活用などがみられた。

図1 調査資料分析

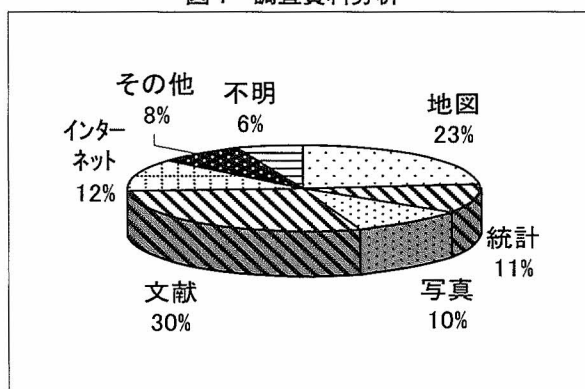


表10 調査資料の詳細

種別	具体的な資料名 (資料数)	合計
地図	一般図(6)、地図帳(5)、不明(5)	27
統計	FAO生産統計年鑑(2)、東北農政局資料(1)、工業統計表(1)、農林水産省統計(1)、不明(7)	13
文献	ガイドブック(5)、図書館の本(5)、資料集(4)、パンフレット(4)、百科事典(4)、新聞(3)、専門書(3)、時刻表(2)、不明(2)	34
その他	電話(3)、聞き取り(3)、FAX(2)、手紙(1)	9

2. 調査資料分析の考察と課題

以上の分析から、教科書がどのような資料を用いて地域調査の事例を示しているのかを分析した。これらの分析から考察を行う。

1点目は、活用されている資料が文献資料に最も比重を置いている点である。帝国書院の教科書に用いられている資料は116である(2社合計では211ある)。そのうち、文献資料が最も多い。帝国書院では34件(30%)である。なお大阪書籍では28件(30%)にのぼり、合計62件(全体の30%)である。文献資料を活用するためには学校図書館または地域の図書館施設などの活用や教室への書籍の常備などの方法が考えられるが、学校現場では予算面などから学習者1人ひとりの学習課題に応じて教科書例示の資料を買い揃えることは現実には難しい。また、文献資料は変化の激しい時代、常に内容の更新が求められるが、紙メディアでは随時更新は不可能であるだけに、新しい情報が必要な統計資料などを文献に多く依存する教科書の調査資料活用には課題が残る。

2点目は、地図資料の活用方法である。地理学習においては常に地図の活用が重視されてきた。このことについて新学習指導要領では地域的特色をとらえるための視点や方法について述べる一節で、「大きくみれば、地域の環境条件、他地域との結び付き、人々の営みが、相互に影響を及ぼしながら地域的特色が形成され、変容しているといえよう。それを、どのように見だし、どのように調べ、追究し、表現していくか、地図の活用、地図化の工夫を柱にして、地域的特色をとらえる視点や方法の習得も重視している。」⁸⁾(傍線筆者加筆)との記述が見られ、地図活用による地域的特色の習得を明確に位置付けている。2社の教科書においても地図活用による問いは文献資料に次いで多く45事例を数える。しかし、活用の方法をみると複数の地域規模でも活用が可能な問いが2社合わせると22事例、1つの地域のみでの問いで他の地域規模では活用できない、転移しない問いは23事例であり、約半数は転移しない問いである。三地域規模で系統的な調査を意図した地図の配置とは必ずしもなりえてはいない。

3点目は、コンピュータの活用方法である。教科書2社の事例ではコンピュータの活用はすべてインターネットを活用する事例であり、15事例ある。このうち最も多かったのは、インターネットのホームページを検索して情報を収集する方法で2社合わせて13件あった。その他の2件は、インターネットによる検索の方法を示す事例(帝国書院・八王子市)、「工業の変化と環境問題について調べる。福岡県の現在の工業の変化が知りたい。」という問いに対して、「県庁の工業担当者にメールで聞きとりをする」(帝国書院・福岡県)という2つの事例があげられる。社会科におけるインターネット活用は情報の検索・収集だけでなく、情報の編集・作成、交流・発信などの形態があるが、教科書の事例はいずれも情報は集めるだけのものという偏った活用のみであることが課題として残る。

V. まとめ

本論文では、中学校社会科の学習指導要領改

訂に伴い、見方・学び方という学習方法重視の単元構成となった「地域の規模に応じた調査」単元を、新しい教科書ではどのような構成・方法・教材で学習を展開しようとしているのかを分析した。

教科書の構成分析に関して、帝国書院の教科書では、追究する地域事例の配列、学習テーマの配列において系統性が見られないことを指摘した。

次に、教科書の調査方法分析からは、三地域を系統的に学習していく構造とはなりえていないこと、都道府県と世界の国々の学習が過度に教科書において共通化される危険性を指摘した。また、学習指導要領に示されている調査の一般的段階から考えた場合、教科書は、調査学習全般を学習するには内容的に十分とはいえない。さらに、教科書は問いの事例提示に終始し、学習者に問いを喚起させる構造とはなりえていない点も指摘できる。

最後に調査資料分析からは3つの課題を指摘した。1点目は、活用されている資料が文献資料に最も比重を置いているということ。2点目は、地図資料の活用方法が三地域規模で系統的な調査を意図した配置とはなりえていないこと。3点目は、コンピュータの活用について、特にインターネットの活用方法が、教科書の事例ではいずれも情報の収集という偏った活用のみであるという点である。

以上のことから、本論文は新しい学び方重視の単元構成の実態を解明し、単元構成の課題を指摘することにより、改善の方向性を見出した点に意義がある。

今後の課題としては、改善の方向性を具体的に示した単元構成の開発を、おこなっていくことである。

〔注〕

- 1) 中村和郎・高橋伸夫他「社会科中学生の地理」帝国書院、2002年3月
- 2) 帝国書院中学校地理的分野教科書大単元「さまざまな地域の調査」の構成を目次で示すと以下のようにになっている。
 - 1章 身近な地域を調べよう 東京都八王子市
 1. 空から身近な地域をながめてみよう

2. 野外に出かけて身近な地域を調べよう
3. 見つけた課題をもっとくわしく調べよう
4. 調査の結果をまとめて発表しよう

2章 都道府県を調べよう

1. いろいろな地域に分けて県を調べよう
～地図帳の土地利用を手がかりにした東京都の例～
2. 特色となるものを見つけて県を調べよう
～統計資料を手がかりにした山形県の例～
3. さまざまな視点で県を調べよう
～自由な資料集めを手がかりにした福岡県の例～

3章 世界の国々を調べよう

1. 国内の地域のちがいに注目して国を調べよう
～統計資料を手がかりにした中国の例～
2. 他の国との結びつきに注目して国を調べよう
～自由な資料集めを手がかりにしたアメリカの例～
3. 周りの国との協力関係に注目して国の例を調べよう
～地図帳を手がかりにしたドイツの例～

3) 資料番号とは、教科書に掲載された調査方法の事例を分類するために筆者がつけた番号である。番号のあらわす意味は、以下の例の通りである。

※表中の「資料番号」の説明 例 $\left[\begin{array}{ccc} 1 & 1 & 01 \\ A & B & C \end{array} \right]$

A: 1 = 帝国書院 2 = 大阪書籍

B: 1 = 身近な地域 2 = 都道府県 3 = 世界の国々

C: 地域内での通し番号

4) カッコ内の%表示は全事例を分母とした場合の割合を示す。以下すべての%表示とも同じである。

5) 文部省「中学校学習指導要領解説－社会編－」大阪書籍、1999年9月、p.46

6) 片上宗二「社会科で身につけさせたい『学び方』」, 授業研究 21 明治図書、1999年9月、p.51

7) 澁澤文隆「『学び方』が身に付く転移性がある典型教材とは」, 『社会科教育』明治図書、2000年9月、p.19

8) 文部省、前掲、p.26